

2008年

10月3日（金曜日） - 沖縄との大きな輪、老いを寿ぐ大きな和 -

10月1日夜到着、3日午後離沖の2泊2日の日程で沖縄出張をさせていただきました。本年11月に第1回の「百歳バンザイ」健康大長寿のさとづくり全国交流会」を本市で開催することとしており、その準備のため、日本一の長寿県である沖縄県の県庁、各市市長さんを行脚し、本大会へのご参加とご協力をお願いする旅程をすすめました。県知事は県議会開催中のためお会いできませんでしたが、名護市、うるま市、宜野湾市、糸満市の各市市長さん、豊見城市の副市長さん、県の福祉保健部長さん、長寿社会研究に詳しい琉球大学の平良教授はじめ多くの関係者の皆さんにお伺いさせていただくことができ、百歳福寿のまちづくりの推進に向け貴重で発展的な意見交換をさせていただくことができました。それぞれの皆さんには心のこもったご対応を賜り心から感謝を申し上げます。

私も自ら国家公務員の時代、10年程前に約2年間、沖縄に住まわせていただいたことがあります。当時はいわゆる米軍基地問題が大きく取り上げられ始めた時期でもあり、厳しい状況での仕事でありましたが、日々の生活の中ではずっと、心の中に底から滲み出るような"笑い"があったような印象があります。ひと括りの言い方ですが、沖縄の人は本当に温かく気さく。いい意味で商売っ気もあまりない。例えば、当時、街で信号待ちのバスにお年寄りが駆け寄ってきてドアをドンドンたたいていると、サッとドアが開いて中に招き入れられるシーンも2、3度見かけましたが、率直に何かほのぼのと嬉しくなったことを思い出します。また、タクシーに乗り込んで話をしていると運転手さん、話に入り込まれて料金メーターを落とし忘れられ、結果、料金を十分でなくせざるをえなかったことも1度ではありませんでしたがどの方もほがらかだった。ある日近くの定食屋さんで定食を注文したけどいつも出てくるはずのメニューの中のみそ汁がその日に限って配膳されない。その理由を尋ねると、「あーっ、忘れてたさ」。細かいことあまりこだわられないゆったりとしたものの思われ方、だれかれの区別の少ない人間関係の包容の大きさ、温かさ、そしてそんな沖縄の空間にじわっと静かに共鳴する、精妙な何か嬉しい感覚がいつもあった。

沖縄の皆さんの長寿は、暖かい気候や景観美しい豊かな自然と食などによる面ももちろんあると思いますが、それに加えて、素人の見立てですが、くよくよしないおおらかなテグー（大概）思想や、心の洋々さ、穏やかさ、温かさ、生活を貫いて湧き滲むような心の中の静かな喜びと無関係ではないと思う。このような素晴らしい環境に抱かれる沖縄の皆さんははじめ全国の志を同じくする皆さんとともに、全国各地の百歳福寿の特色をひも解き宝を共有し、老いを寿ぐ全国の皆さんの大きな和をつくりながら、百歳福寿をさらにますますお支え進め、「老い」自体を心から喜べる百歳福寿のさとづくりを

広げていきたいと思っています。